



コロキアム

「蘇る『ケルズの書』

—新しい視点による新しい解釈の試み—

800年頃制作された『ケルズの書』は聖書を記した写本であり、現在は、アイルランドの首都ダブリンにあるトリニティ・コレッジの図書館に収められている。それが世界で最も美しい本だと言われる理由は、そこに非常に細かい図柄に多くの色を施した装飾模様が描かれているからである。オニール氏は、この写本の本文と装飾模様がどのような意味を持っているのか、その解釈の背景について論じる。萩原氏は、『ケルズの書』の装飾模様がどのようにして描かれ、どんな顔料が使用されていたのかを解明するため、当時の技法を使ってオリジナルを、出来る限り正確に復元する試みを続けている。今回、2名の講師が『ケルズの書』を新たな視点から考察する。そこから得られた知見は西洋美術史の域を超え、広く中世ヨーロッパ史研究に資する。



14時40分～15時00分

パトリック・オニール

(在外委嘱研究員 / ノース・カロライナ大学チャペルヒル校 教授)

“The interpretative background to the Book of Kells”

(『ケルズの書』の解釈の背景について)

15時00分～16時00分

萩原美佐枝

(『ケルズの書』の復元模写と色の研究者)

「オリジナルの顔料を求めて

—『ケルズの書』の装飾模様の色彩を蘇らせる—



16時00分～16時10分

質疑応答

司会 和田葉子 (主幹研究員)

